

**高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議**  
**第2回「視野と安全運転の関係に関する調査研究」分科会**  
**議事概要**

**1. 開催日時等**

- ・ 開催日時：平成30年12月13日（木）18：00～20：00
- ・ 開催場所：TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター9B

- ・ 構成員等

平和橋自動車教習所副管理者 青木洋

たじみ岩瀬眼科院長 岩瀬愛子

日本大学名誉教授 大久保堯夫（座長）

科学警察研究所交通科学部交通科学第二研究室室長 岡村和子

本田技研工業株式会社安全運転普及本部 小野浩

東北大学大学院医学系研究科講師 国松志保

帝京大学医学部名誉教授 久保田伸枝

花巻中央眼科院長 高橋和博

全日本指定自動車教習所協会連合会教習教育部長 平井克昌

福田眼科医院院長 福田敏雄

近畿大学医学部教授 松本長太

警視庁交通部運転免許本部運転者教育課長 箕輪浩之

警察庁交通局運転免許課長

警察庁交通局運転免許課高齢運転者等支援室長

警察庁交通局運転免許課課長補佐

## 2. 議事進行

### 2. 1. 開会

※事務局より開会を宣言。

### 2. 2. 議事

各委員の主な意見等については、以下のとおり。

#### 【試験導入の概要・状況報告について】

- ・ 視野検査は臨床でも実施するが、初めて検査を受ける方にすぐに実施方法を理解してもらうのは難しく、80歳から85歳の間に一つのラインがある。そのライン以降の方は、検査時間も長くなりがちである。
- ・ 視野検査に慣れていない人の検査が上手くいかず、偽陽性や固視不良になっている。臨床で初診の患者が視野検査をした状況とよく似ている。

#### 【新たな視野検査器の妥当性について】

- ・ 新たな視野検査器は、臨床的に視野異常を評価している検査器と高い相関を有し、かつ片眼を3分程度で評価できることが、本実験で検証できている。
- ・ 新たな視野検査器による検査は、(モニターに)白い点が見えたらボタンを押し、見えない場合はボタンを押さないなので、実際に検査している時は、自分が見えていないということはわからない。検査結果を基に「ここが見えていない」と言われることで、受講者が「見えていないのかな」と感じたのではないか。実際に自覚させるなら、検査の最後で配ったクロックチャートで絵が消えることを自覚させないと、本当に自分が見えていないことを実感できないのではないか。
- ・ (現行の)水平視野検査を考えると、新たな視野検査器による検査の方が非常に有益ではないか。

#### 【新たな視野検査器に関する課題について】

<汎用品の不存在、導入コスト、メンテナンス、設置場所>

- ・ 身体障害者の認定に、眼科のエスターマン検査を使うことが正式に決まったため、一部メーカーが安価な装置を作ろうとしている。こうしたエスターマン検査の機能を新たな視野検査器に改造できるので、コストの課題は解決していくのではないか。
- ・ 使い勝手やメンテナンスは、ソフトウェアの作り込みの問題であり、仕様が固まれば、メーカー側で対応すると思う。使い勝手の改善の余地は十分ある。

<固視の持続ができない者の取扱い>

- ・ 固視の問題は水平視野の際にもあると思われる。固視をさせることは臨床でも難しい。

- ・ 固視の問題により、新たな視野検査器の位置付けは、あくまでも受講者が視野の状況を自覚する手段となるのではないか。

＜受講者の操作への理解（時間割通りに検査できるか等）＞

- ・ 新たな視野検査器による検査結果は、臨床で使用する検査器による検査結果と強い相関があり、精密で感度も素晴らしいが、受講者や指導員が使いこなせていない。もう少し簡単に、視野の悪い人のみを検出でき、検査時間を短縮できる方法を考えてもよいのではないか。
- ・ 今回の結果を見ると、実際に多くの受講者を検査しても、視野異常という結果が出る受講者はわずかである。効率性を考えると、視野検査器をさらに簡略化し、最初の段階で本当に視野が悪い人を振り分ける仕組みを考えてもよいのではないか。

＜指導員の習熟度や受講者への説明・指導の在り方＞

- ・ 一般的に、「目が良いということ」を「視力が良いこと」と捉えている人が多いが「ものを見る」、「運転をする」には視野も必要という認識を高める必要がある。
- ・ 視野の悪い人に気付きを与えるということが大切であり、視野異常が疑われる受講者に対しては、眼科を受診することを勧めていく流れができるとよい。
- ・ 「何点以上が視野異常である」という基準を作ることは非常に難しく、「何点以上であれば眼科に行きなさい」ということは言いにくい。

＜医師（医師会）との連携の在り方＞

- ・ 受講者が高齢者講習の視野検査結果を持って眼科に相談に行った場合における眼科の対応については、眼科学会や視野学会との相談（調整）になる。
- ・ 今回の新たな視野検査器による検査結果を印字した説明用紙であれば臨床的な表記に近い眼科医に見せても理解してもらえる。臨床医なら違和感なく再検査できる。

【今後の高齢者講習における視野検査の在り方について】

- ・ 今回の調査研究の目的に「視野異常と交通事故との関係」という点があるが、これはまだ解決していない。どの程度視野の悪い人が要チェックであるのかを判断する基準がないためである。そのため、新たな視野検査器は、異常が出始めたところから検出できる設定になっている。これは、臨床の検査とかなり相関が高い検査を短時間に実施しているというイメージである。
- ・ 「視野異常と交通事故との関係」を調べるために、まず視野が非常に悪い人のデータを数多く集めないと、どのような視野状況の人が危ないかという答えは出ない。視野の悪い人の数は多くはなく、そうした人の視野状況等とその後の交通事故歴を多数継続的に収集して検証することが必要となる。そうした取組に今後も期待したい。
- ・ 海外では、視野検査結果だけで運転できるのか否かを判断するのではなく、実車を使って総合的に判断していると聞いている。

### **2. 3. その他**

※事務局より今後の予定を連絡。

### **2. 4. 閉会**